

セイフティーネットプロジェクト横浜主催

自閉症や知的障害のある方のコミュニケーション支援に関する研修会

令和7年8月5日（火）、横浜市健康福祉総合センター4階ホールにて、研修会を開催しました。当日は、WEB 参加も含めて、学校や障害福祉関係の職員など、117 名に参加いただきました。

『コミュニケーションボード』とは…

自閉症や知的障害のある人の中には、言葉だけでなく、わかりやすい絵記号や写真などで使うことでコミュニケーションがスムーズになる人もいます。『セイフティーネットプロジェクト横浜（以下『S ネット』）』では、平成17年からコミュニケーションのバリアフリーを広げるため、『コミュニケーションボード・カード』の作成と普及活動を行ってきました。

今回の研修では、『S ネット』事務局からこれまでの取り組みを報告し、参加者へ『コミュニケーションボード・カード』の活用を呼びかけました。



災害用コミュニケーションボード

支援の現場から～コミュニケーションカード等の実践報告～

『コミュニケーションカード』等を取り入れ、支援をしている青山隆氏（南福祉ホームむつみ）から、試行錯誤しながら取り組んだこれまでの実践をお話いただきました。

青山氏は“写真カードを使っている！”“スケジュールを使っている”というだけで満足しない。その人にとって“写真カード”がどうして・どの場面で必要なのか、本人の理解・行動につながっているか、しっかり見極めることが大切」と、カードを取り入れる時のポイントを説明されました。そして、これまでの経験を振り返り、

「私たちと同じで、利用者さんにもそれぞれ挑戦したり、経験したりする機会があるのは当たり前。写真カードや視覚支援は、それを支える一つの手段です。」と話されました。



支援現場で活用しているカードの一例

障害理解を広げていくために



金沢区自立支援協議会啓発部会のみなさん

地域の人たちへの障害理解を広げるための取り組みが各区で行われています。今回は、「金沢区自立支援協議会啓発部会」の皆さんに報告していただきました。

金沢区では、地域防災拠点の訓練などで、障害のある人と事業所の職員が出前講座（※）を行っています。講座では、車いす体験を取り入れたり、障害特性を寸劇で紹介したりとわかりやすく伝えるための工夫をしながら活動しています。また、障害理解啓発のために動画の作成、SNS やラジオでの発信、地域の活動家と協働して、地域に向けて様々な取組をしています。

※ 出前講座について



出前講座で使用する紙芝居

『S ネット』でも、出前講座に取り組んでいます。

誰でも行えるようにシナリオを作成し、災害時に避難場所等で、知的障害や自閉症のある人へ支援いただきたいポイントや、コミュニケーションボードの使い方などを伝えています。

詳細は、右の二次元コードよりホームページをご覧ください。



参加者の声

「現場で取り入れられそうなものもありましたので、取り入れたいと思いました。」「地域へ向けた取り組みがたくさんあり、社会にもっと認知されると、障害がある方だけでなくいろいろな方が安心して生活できると感じました。」「学校現場においても地域との連携を意識しながら、子どもたちに『伝える』『伝わる』力を育てていきたいです。」などの感想が寄せられました。

これからも、『S ネット』では『コミュニケーションボード・カード』の普及活動を進めていきます。ご興味のある方は、インターネットで『セイフティーネットプロジェクト横浜』を検索し、ホームページをご覧ください。

<問い合わせ先>

セイフティーネットプロジェクト横浜事務局：横浜市社会福祉協議会 障害者支援センター

TEL：045-681-1211 Fax：045-680-1550